

メダカの飼育密度と生長との関係

観賞魚では、手軽に飼育できるメダカの人気が高まっていますが、メダカの養殖では、メダカの適切な飼育密度の解明が課題となっていました。

そこで、メダカの飼育密度をどれぐらいにすればよいのか、1㎡当たり500尾と2000尾を飼育して、生残率や成長を比較しました。その結果、①生残率は双方とも約70%で差が無いこと、②平均体長は、飼育数が少ない500尾の方が、2000尾より大きく育つこと、③体長のばらつきは両者に差が無いことがわかりました。これらのことから、放養尾数を上手に組み合わせて出荷時期を調整すれば、有利な販売が可能になります。

1 メダカの採卵

メダカの採卵は、池にホテイアオイを投入して行います。自然条件では、4月下旬～9月上旬頃まで採卵できます。ふ化稚魚は、最初から配合飼料で養成できます。



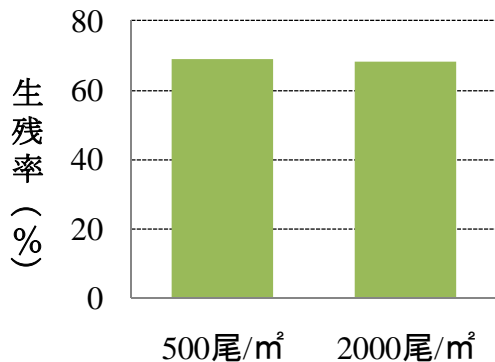
池での採卵



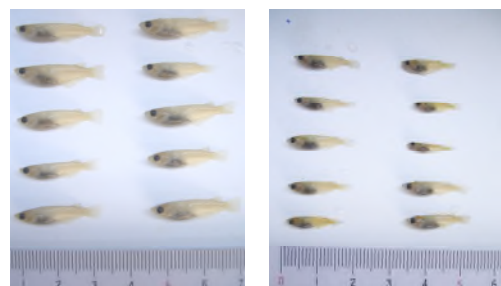
ホテイアオイに付いた卵

2 メダカの育て方

生残率は約70%。収容密度(500尾/㎡と2,000尾/㎡)の差はありませんでした。早く出荷する場合は、生長が良い低密度(500尾/㎡)で育てます。販売可能な大きさ(体長20mm)に達するまでに要する期間は、500尾/㎡の場合で約60日です。



収容密度の違いと生残率



500尾/㎡

2,000尾/㎡

収容密度の違いとメダカの成長